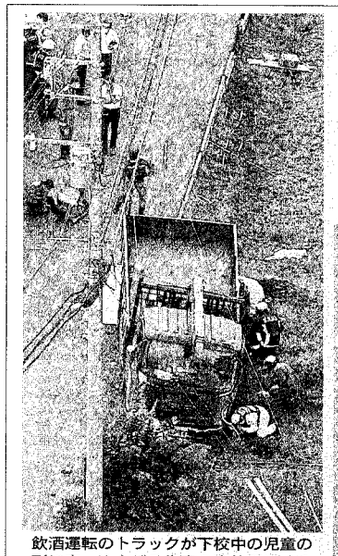
迎え酒でハンドル、事故
「アル中」体験、講習会で

根絶！飲酒運転

悲劇引き起こす依存症ドライバー



飲酒運転のトラックが下校中の児童の列に突っ込んだ八街市の事故現場。公判ではこの運転手が飲酒運転を繰り返していたことが指摘された＝6月28日、朝日新聞社ヘリから、迫和義撮影

勤め先の社長の車を無断で借り、エンジンをかけてからの記憶がない。気づけば電停に激突していた。あばら骨を折る重傷。白昼の事故だった。約20年前のこの日も、前日の酒が残っていた。だが、迎え酒をし、ハンドルを握った。

「常習犯」が講師

「アル中で、飲酒運転の常習犯でした」

阿部孝義さん(62)は、アルコールの基礎知識や節酒・断酒方法を広める講習会の冒頭で、必ずこう自己紹介する。すると、参加者の目つきが変わり、真剣に耳を傾けてくれるようになる。

約20年前の事故では九死に一生を得た。いまは、NPO法人ASK（アルコール薬物問題全国市民協会）が認定する飲酒運転防止上級インストラクターで、依存症予防教育アドバイザーを務めている。10年ほど前から、講習会などで全国30カ所ほどで実体験を語ってきた。

飲酒運転防止をテーマに話す阿部孝義さん＝本人提供

酒を口にするようになったのは13歳の中学生の時。高校生で始めたアルバイト先の焼き鳥屋で本格的に飲み始め、17歳で十二指腸潰瘍を患った。18歳で胃に穴が開き、手術をした。

小学生のころはいじめられっ子で、気が弱いところがある。酒を飲むと、強くなれるような気がした。酒は力を与えてくれる「魔法の水だった」。

社会人になると、接待の席も相まって酒量は増えた。二日酔いでの出勤は当たり前だったが、当時は上司も寛容だった。飲酒運転は日常茶飯事だった。

二日酔いでつらい朝は、迎え酒をすればすっきりとした。体内からアルコールが抜けると、震えや冷や汗が出る「離脱症状」に襲われた。震えを止めるため更に酒を飲み、翌朝は迎え酒をし、飲酒運転を繰り返す。

そのような日々を過ごしていた約20年前、あの事故を起こした。だがそれが初めてではなかった。それまでにも飲酒した末の事故を起こしていた。

だが、事故を起こしても酒をやめられず、その後4年近く飲み続けた。異変に気づいていた家族からは、酒の飲み方を散々注意された。「あなたは間違いなく、アルコール依存症」。妻からそう断言され、離婚か入院か自助グループ入会を迫られた。離脱症状でやめたくてもやめられなかった。依存症という現実を認めたくない気持ちもあった。

47歳の時、長年の飲酒についに体が悲鳴を上げた。食事がのどを通らず、水を飲んでも戻すようになり、日常生活を送ることができなくなった。そして、やっとたどり着いた病院で、医師から「酒をやめることはつらいし、苦しいけど、一緒に頑張ろうな」と手を握られ、自然と涙があふれた。自らの弱さを認め、自身と向き合えた瞬間だった。

事故の悲劇が繰り返されるのに伴い、進められてきた厳罰化や安全対策。だがいまだに後を絶たない飲酒事故は、犠牲者やその家族はもとより、運転手や周囲の人々の人生までを一変させる。飲酒運転はなぜ無くならないのか。根絶するには何が必要なのか。ワッペン「根絶！飲酒運転」で、共に現状と課題を探っていきたい。

どれくらいの量を飲めば飲酒運転になる可能性に？

NPO法人ASKの資料による

飲酒の指標

- **節度ある適度な飲酒**……**1単位**
  1日平均純アルコール20㌘程度の飲酒。女性や高齢者は半分に
- **生活習慣病のリスクを高める飲酒**…**2単位**
  1日平均純アルコール40㌘以上の飲酒。女性は20㌘以上
- **多量飲酒**……**3単位**
  1日平均純アルコール60㌘を超える飲酒

アルコールの1単位　1単位＝純アルコール約20㌘を含む酒類

- **ビール**　アルコール約5%、**中瓶1本またはロング缶1本（500㎖）**
- **日本酒**　アルコール約15%、**1合（180㎖）**
- **ウイスキー**　アルコール約43%、**ダブル1杯（60㎖）**
- **ワイン**　アルコール約12%、**小グラス2杯（200㎖）**
- **チューハイ**　アルコール約7%、**1缶（350㎖）**
- **焼酎**　アルコール約25%、**コップ半分（100㎖）**

1単位のアルコールの処理は、**飲み終わり後から男性は約4時間、女性は約5時間。**3単位飲むと、半日は抜けないため、3単位飲んだ翌朝は飲酒運転になる可能性大。

アルコール依存症スクリーニングテスト（CAGE）

①	飲酒量を減らさなければと感じたことがありますか？
②	人から飲酒を非難されて、気に障ったことがありますか？
③	自分の飲酒に後ろめたさを感じたことがありますか？
④	神経を落ち着かせたり二日酔いを治したりするために迎え酒をしたことがありますか？

二つ以上当てはまると、依存症の可能性がある。依存症は飲酒のコントロールを失う病気で、早めの治療や援助が大切なため、保健所や精神保健福祉センターに相談を。

（久里浜医療センター版を一部改訂）

9都県市がメッセージ

八街市の児童死傷事故などを受け、県などの首都圏9都県市は15日、飲酒運転根絶に向けた共同メッセージを発信した。

メッセージでは、八街市の悲劇を忘れないとして①飲酒運転をしない②飲酒運転をさせない③飲酒運転を許さないを柱に、「飲酒運転は大切な人の未来を奪う『重大な犯罪』」と訴えている。9都県市は今後広報誌などで周知する。

八街市の事故は自社の荷物を運ぶ「白ナンバー」のトラックが引き起こした。県は来月にかけて独自に白ナンバーのトラックを使用する機会が多い県内の運輸や建設などの約1万4千事業所を訪問し、啓発活動に取り組む方針。（酒井祥宏）

職場でも予防を

他人にも正しい飲酒方法を教えていかなければ。その思いから、ASK認定のインストラクターやアドバイザーの資格を取得した。

酒の臭いや言動の変化など、「アルコール依存症の疑いがある人の普段の言動から注意をして欲しい」と訴える。職場では産業医と相談したり通院を勧めたりする「予防の観点からの取り組みが必要」

厳罰化が進んでも飲酒運転はいまだに繰り返されている。阿部さんはその理由を「病気の人がいるから」と指摘する。厚生労働省などによると、アルコール依存症の診断基準に該当または疑いがある人は国内で100万人超とされるが、継続的に治療しているのは2017年でわずか約4万6千人（いずれも推計）だ。

大事だと思うのは、周囲が異変に気づいたとき職場がどう動くかだという。

「各企業がドライバーや全職員にアルコールの基礎知識や正しい飲み方を身に付けさせるなど予防の観点から対策しない限り、いくら交通面が整備されても飲酒運転は無くならない。企業は自覚を持って、社員の安全教育や管理をするべきだ」（多田晃子）

訂正して、おわびします

▼13日付「変わる進学　小学校受験　増える傾向続く」の記事につく表で、立教女学院小の21、22年度の定員が「90」とあるのは、いずれも「72」の誤りでした。

流経柏 逆転V
高校サッカー県大会
市船橋に雪辱

前半、ドリブルでの突破を試みる流通経大柏の西岡亮哉選手③＝県立柏の葉公園総合競技場

第100回全国高校サッカー選手権大会の県大会決勝が14日、県立柏の葉公園総合競技場であり、流通経大柏が2－1で市船橋を破り、3年ぶり7回目の優勝を決めた。流通経大柏は12月28日から開かれる全国大会に出場する。

決勝は9年連続同カードの対戦。流通経大柏が積極的なプレスから中盤でボールを奪い、主導権を握った。前後半でシュート計8本と、市船橋の計2本を大きく上回った。

流通経大柏は1点を先行された前半35分、MF高足龍選手（3年）のシュートで同点。さらに前半37分、右サイドから相手守備を崩し、DF西岡亮哉選手（同）が中央に折り返すボールを供給すると、高足選手が冷静にゴール右隅に流し込み逆転した。

市船橋は前半28分、FW郡司璃来選手（1年）が相手GKのミスを見逃さず先取点を挙げたが、その後は粘り強い守備に阻まれた。

流通経大柏の榎本雅大監督は、「市船橋に昨年のリベンジができたが、まだ旅の途中。日本一を取りにいく」。2得点の高足選手は「2点目はシュートした瞬間『来たな』と思った。夢のような舞台で活躍できてよかった」と話した。（上保晃平）

物流施設に反対署名
矢切の計画　松戸市長に提出

計画反対を要望する佐藤清代表（左から2人目）と本郷谷健次市長（右）＝松戸市

映画「男はつらいよ」の舞台で知られる松戸市矢切耕地の大規模物流センター計画で、反対する市民の会のメンバーが15日、本郷谷健次市長に1036人分の反対署名を手渡し農地保全を要望した。市長が計画を巡って利害関係者と公式に会うのは初めて。市は市内の開発や保全に関する次期都市計画マスタープラン（2022年度～41年度）を策定中で市長は「慎重にコンセンサスを得て具体的検討に入る」と答えた。

要望をしたのは「矢切の耕地を未来につながる会」の佐藤清代表(89)ら。要望書では「矢切は貴重な緑の景観をもった地域で、『矢切ネギ』を始めとする野菜と米の産地実り豊かな矢切耕地への巨大物流センター建設を止めてほしい」などとしている。会のメンバーで矢切地区の農家唐沢圭輔さん(42)は「計画で矢切の農地は荒れ放題になっている。次期都市マスで我々若い農家を応援してほしい」と訴えた。

矢切耕地は江戸川沿いに広がる約100ヘクタールの農地。特産の「矢切ネギ」や稲作で知られる。計画では国道6号に近い約15ヘクタールに都内の大手不動産会社などが地上2階建ての物流倉庫3棟を建設する計画。2017年秋から農家との間で土地の売買契約を結ぶ動きを見せた。しかし一帯は開発が制限される市街化調整区域で市の開発許可が出る見通しが立たず計画は宙に浮いた状態だ。

一方で、計画に反対する地元農家や市民らは18年9月に「つなげる会」を設立し署名活動を続けてきた。現在までに千余人分が集まったという。

この間、計画農地の大半は耕作放棄地となり、荒れ放題になった時期もあったが、唐沢さんによると今年春ごろからネギやキャベツなどの野菜栽培を活発化させているという。現在、耕作地と放棄地がまだら模様になっている。唐沢さんは「最近は雑草の種が我々周辺の農地に大量に飛んでくる。計画がダメになったら放置された土地は農地に適さなくなるから予定地の農家も耕作し直したのだろう」と話す。

市の都市計画マスタープランは来年3月までに策定の予定。市幹部は矢切耕地の扱いについて、「（現都市マスから）大きく変更する理由がない」としており、計画の先行きは不透明な状態だ。（青柳正悟）